

2.3.2 水象の状況

(1) 河川及びため池

東に南アルプス、西に中央アルプスがそびえ、北から南へ向かって天竜川が流下している。伊那市内を流れる河川はすべて天竜川水系で、中央アルプスから小沢(おざわ)川、小黒(おぐろ)川、犬田切(いぬたぎり)川、藤沢川が流入し、伊那山脈から棚沢川、大沢川が流入している。また、南アルプスから発して、伊那山脈を流下して先行谷をつくり、三峰川が流入している。主な河川の概要を表 2.3-2 に示す。

環境基準の水域類型の指定は、天竜川は三峰川合流点までがB類型、三峰川合流点より下流及び三峰川がA類型となっている。

表 2.3-2 主な河川の概要

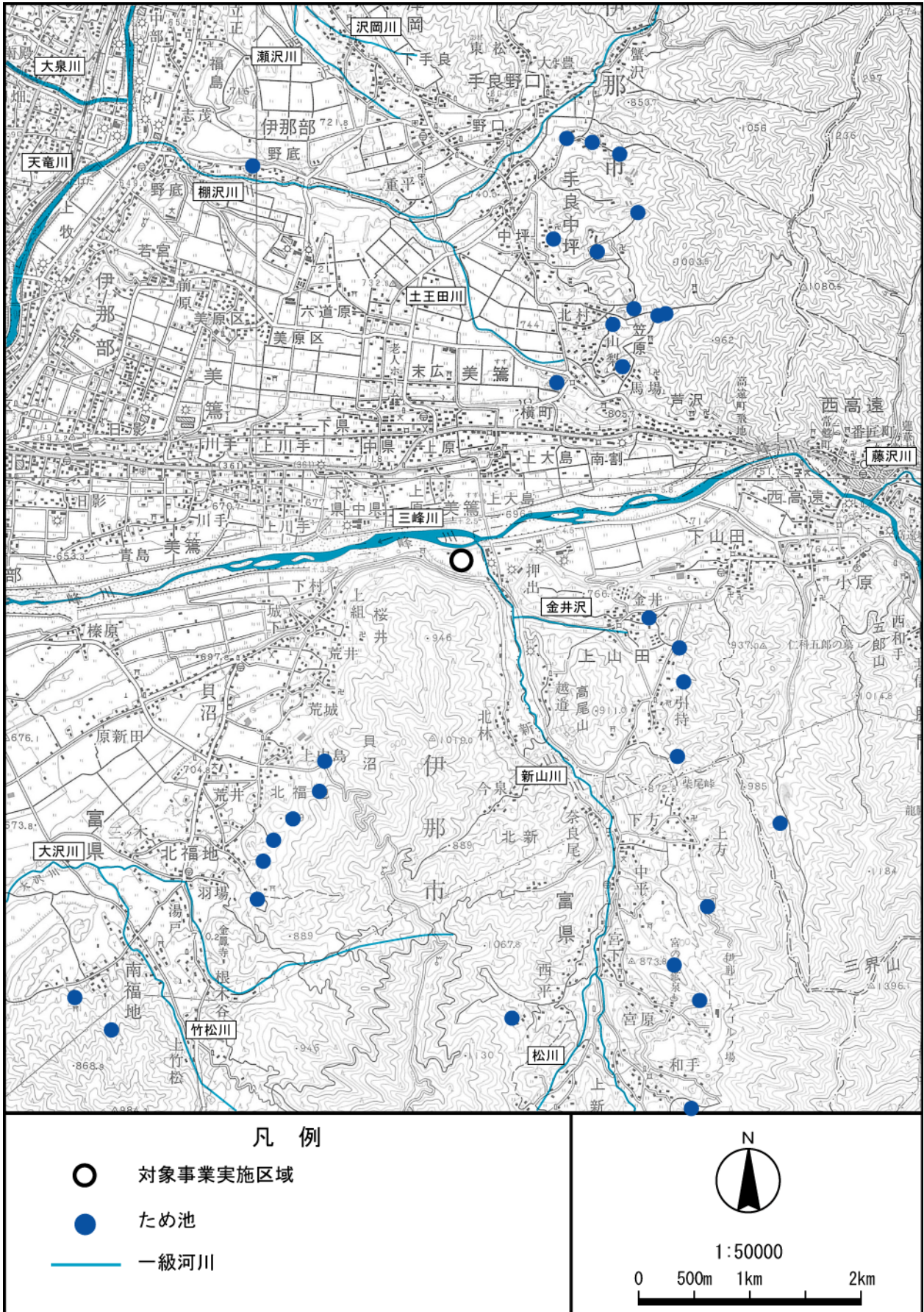
名称	市内流呈(m)	名称	市内流呈(m)
天竜川	12,500(118,453)	大清水川	6,400(6,900)
三峰川	52,730	大泉川	2,450(6,649)
小沢川	6,976	瀬沢(せざわ)川	3,200
小黒川(伊那)	13,407	藤沢川(高遠)	13,080
犬田切川	5,109	松倉川	4,000
棚沢川	6,000	山室川	14,000
新山川	5,400	黒川	12,753
大沢川	9,420	戸台(とだい)川	8,066
藤沢川(伊那)	6,104	小黒川(長谷)	11,772

注) 流呈の()内は県内流呈を示す。

出典:「伊那市統計書(平成21年版)」(伊那市)

対象事業実施区域及びその周囲における主要な河川及びため池を図 2.3-4 に示す。

対象事業実施区域は三峰川(一級河川)とその支流である新山川(一級河川)の合流点に位置する。また、対象事業実施区域及びその周囲では、ため池が31か所存在している。



この地図は、国土交通省国土地理院発行の5万分の1地形図を基に作成した。
 出典：「伊那建設事務所管内図」（平成19年10月伊那建設事務所）、伊那市資料（農業用ため池施設位置図）、
 長野県資料を基に作成

図 2.3-4 河川及びため池の状況

(2) 用排水路

対象事業実施区域の南側には、伝兵衛井筋(でんべえいすじ)という古くからの用水がある。「伊那谷の自然Ⅰ」(平成9年6月 社団法人中部建設協会)によると、伝兵衛井筋は、新山川を取水口とし、三峰川に並行して1kmほど南を流れるが、井筋の方が数10m高いところを流れている。

(3) 地下水・湧水

対象事業実施区域が位置する伊那市には、段丘崖(だんきゅうがい)を中心に湧出している場所が無数にあり、生活用水、かんがい用水等に活用されている。

「平成10年度伊那市環境基本計画策定業務委託報告書」(平成11年3月 伊那市・株式会社総合環境研究所)によると、富県地区では20数か所湧出しており、特に北福地(きたふくち)の山沿いに多く見られる。湧水量は少なく、いくつかは鉄分を含み、川底の石や湿地の藻類が赤い沈殿物に染まったようになっている。

美篤地区では、笠原・上大島から青島にかけての河岸段丘下に10数か所湧出している場所がある。以前は飲料水に使用されていたが、今は使用されていない。

手良地区では、下手良(しもでら)・中坪にかけて10数か所湧出しており、飲料水に使われたこともあったが、現在は生活雑用水や一部かんがい用水に使われている。